

## 第3回都市政策・地域経済ワークショップ 1 議事録

【テーマ】地域の“志金”が地域をめぐる「お金の地産地消」をデザインする

【講師】合同会社めぐる 代表：木村真樹氏

【日時】2020年5月29日（金）18：30～20：45

【場所】リモート講演

### 1、 自己紹介

地方銀行に就職し地域の役に立ちたがったが機会がなく、NPO・ソーシャルビジネスでのボランティアや役員としての経験をきっかけにNPOバンク「momo」を2005年に立ち上げ、NPO等への融資約1.4億円（200～300万円/件）を行ってきた。2019年からは合同会社めぐるを設立し、全国各地で「お金の地産地消」をデザインするチャレンジを開始。

### 2、 地域経済の状況

#### ① 地域金融機関の状況

1998年に70%以上あった預貸率（\*1）が現在は50%程度となり、地域でお金が回らなくなっている。ゼロ金利下においては運用でも稼げず、厳しい経営状況となっている。

#### ② 地域経済の衰退

地域金融機関は生き残るための合併を繰り返すことにより多様性を失っている。協同組織金融機関である信用金庫や信用組合も、株式会社の地方銀行と同じになりつつある。信金・信組は、地域課題の解決に「本気（＝本業）で」挑むことを通して、会員や組合員との共同体意識を醸成しながら持続可能なビジネスモデルを構築していく必要がある。

### 3、 地域課題の解決に挑む担い手

担い手のひとつとしてNPO法人があるが、その数は1998年以降右肩上がりが増え、コンビニと同じ数といわれている。年間の予算規模1,000万円以上が全体の50%を占め、1,000万円/年を超えると資金需要も出てくるが、金融機関から借りることができず、大半が個人からの借入である。NPO等への融資に取り組む日本政策金融公庫では過去10年間の同分野への融資は右肩上がり、今は信用保証協会も使える。一般企業と比べてデフォルト率も低くなっている。

### 4、 NPO・ソーシャルビジネスの“志金”源

NPO・ソーシャルビジネスの特徴のひとつは、(1)会費・寄付 (2)事業収入 (3)補助・助成 (4)受託収入の4つの収入を組み合わせていること。リスク分散を図りながら貸し倒れも防ぐことができる。地域金融機関が融資できるのは(2)と(4)が主な“志金”源の団体。

【木村氏がアドバイザーを務める信組の取組事例】

ターゲット：若者、女性だけでなくソーシャルビジネスも

既存の銀行が融資できないところへ自ら飛び込んでいく⇒ソーシャルビジネス応援ローンを商品化

JPBV（\*2）のメンバーである。（合同会社めぐるは賛助会員）

#### 【JPBV とめぐるの取り組み事例】

- ・『お金の地産地消白書 2020』の製作
- ・JPBV ソーシャルビジネス支援プログラム

金融機関の役職員向け研修を兼ねた場をつくり、これまで気づくことができなかった地域課題に触れ、その解決に挑む事業者への伴走支援を実践する。

#### 【NPO・ソーシャルビジネスの 2 つの事例】

- 1、長良川流域文化を未来につなげるプロジェクト

<https://deco-boco.jp/projects/view/13>

和傘職人の養成を寄付で支援する

- 2、いびき寄り添いひろがるプロジェクト <https://deco-boco.jp/projects/view/12>

障がい者のグループホームを地域の人々に理解していただくために建設資金の寄付をつくる

### 5、 「社会を変える」計画づくり

地域の課題解決に地域の“志金”がめぐる「お金の地産地消」をデザインするために、NPO・ソーシャルビジネスに対しては「社会を変える」計画の作成支援をしている。作成するポイントは以下の 3 つ。

- ・何が問題か？（変化の法則）
- ・誰と解決するか？（相関図）
- ・どう解決するか？（ロジックモデル）

### 6、 「未来志向の」金融機関に期待すること

地域の中で多くの人気づいていない、ほっとけないことを社会に広げていくことができれば、それはやがて認知され、自治体の政策課題にもなっていく。ただ、地域課題の解決に挑む自治体の財源も限られる中、今後は社会に広がるまでを支える仕組みが不可欠。その領域に対するまなざしを深め、評価できるものさしを持つことが、これからの地域金融機関には求められる。

以上

#### 【文中の注釈】

##### \* 1 預貸率

銀行が集めた預金のうち、どのくらい融資に回っているかの比率

##### \* 2JPBV

一般社団法人価値を大切にする金融実践者の会の略。「価値を大切にする金融」を広めていきたいという願いを持っている。価値を大切にする金融とは、持続可能な社会・経済・環境の発展をもたらすために「お金」という手段を活用していこうという考え方で、「利益を大切にする金融」が主流である現代の金融システムの代替手段として普及させていくことを目的としている。